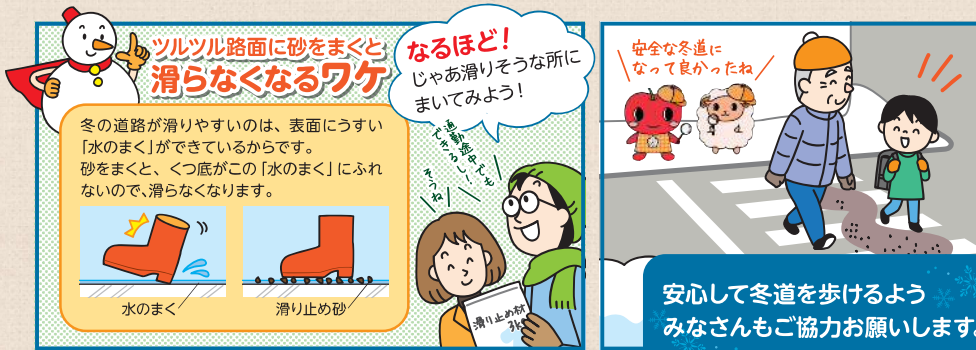




砂まきをして

滑らない冬道づくり



安心して冬道を歩けるよう
みなさんご協力お願いします。



おもてなしの街・豊平



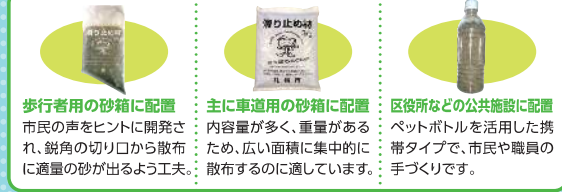
寒い冬、積雪や道路の凍結など冬道は危険がいっぱいです。住む人、訪れる人、みんなの身を守るために砂まきにご協力お願いします。



発行
札幌市豊平区土木部
〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条1丁目8-20
TEL.011-851-1681 / FAX.011-854-4217
平成29年12月発行



すべり止め材あれこれ



冬道の転びにくい歩き方

- 1 小さな歩幅で歩く。
- 2 重心を前に置き、できるだけ足の裏全体を路面に着けて歩く。
- 3 急がず焦らず、余裕を持って歩く。
※転倒しても大けがをしないように、両手はポケットから出しましょう。



さっぽろ砂箱図鑑



歩道用砂箱

FRP（強化プラスチック）製の砂箱で、歩いているともっとも目につく砂箱ではないでしょうか。豊平区では上の2タイプを使っています。



歩道用砂箱(西区)

ドラム缶を活用した砂箱で、豊平区では見ることができません。何だか小さな動物みたいです。

【参考】

歩道用砂箱(北海道開発局)

国道の歩道に北海道開発局が設置している砂箱の一例です。



車道用砂箱

道路に固定して設置しているので、年中見ることができるFRP（強化プラスチック）製の砂箱です。車を降りて砂袋が取り出し易いよう、正面が車道側を向いています。



車道用砂箱(木製)

本体を板、足を角材で作った砂箱で、古臭く見えますが、安価で丈夫で砂袋が取り出し易く、多数使われています。ひもで結わえた土のう袋（矢印の先）は空袋入れです。右上の写真は、「砂箱」と書くところを「砂砂砂」と書いたもので、少しだけ珍しいタイプです。右3枚の写真のとおり、他の区ではデザインが異なる木製砂箱も用いていますので、機会があれば探してみてください。

(中央区)



(白石区)



(北区ほか)



歩道用砂箱(パンダ)

それほど数は多くない、パンダ型の砂箱です。豊平区では札幌ドーム周辺に5基配置しています。

デザイン（特に目と足の裏）に特徴があり、インターネット上などでも少し話題となっているパンダです。握りしめた右手のこぶしに何がしかのやる気か意欲を感じますが、砂袋の収納数が少ないのが玉にきず。

右の写真は北区のパンダの一体で、目の表現が異なり、おとなしいデザインになっています。



砂箱の中身=滑り止め材

砂箱の中身は、滑り止め材が入ったビニールの袋です。

滑り止め材は、慣習的に“砂”と呼ばれていますが、石を細かく砕いたものです。札幌市の車道用砂箱には3kgの袋が、歩道用砂箱には1.5kgの袋が入っています。袋は手で簡単に破れるようになっており、歩行者用はまきやすいように形を工夫しています。お刺身についてくる醤油袋のようですね。